

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社ダイセキ
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市港区船見1番地86
工場等の名称	本社・名古屋事業所
工場等の所在地	愛知県名古屋市港区船見1番地86
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	産業廃棄物処理業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月29日 ～ 令和6年10月27日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 株式会社ダイセキ 伏見アイマークビル8階
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-728-1155		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

下記方針で推進します。（環境方針より抜粋）

- ・カーボンニュートラルの実現
2050年度までに事業活動で利用するエネルギーを全て再生可能エネルギーに切り替え、ネットゼロを目指します。また国、地域、サプライヤーと協働しながら温室効果ガス排出量削減に向けた提案や活動を進めていきます。
- ・サーキュラーエコノミー型社会の実現
サーキュラーエコノミー型社会の実現を目指し、受け入れた廃棄物のリサイクル率の向上及び廃棄物から価値や資源を生み出すビジネスを推進します。
- ・環境汚染の予防
産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、また、同作業上で与える環境負荷の低減及び環境汚染を予防します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

下記に示す I S O 組織にて推進します。

経営層（代表取締役社長）

↓

統括環境管理責任者（環境担当役員）

↓

環境管理責任者（所長）

↓

副環境管理責任者（工場長）

↓

環境担当者（各部署）

↓

全社員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,253	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	7,253	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	6,741	t-CO ₂	5,791	t-CO ₂	6,927	t-CO ₂	7,253	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			14.1	%	▲ 2.8	%	▲ 7.6	%		%
温室効果ガスみなし総排出量					6,128	t-CO ₂	6,072	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					9.1	%	9.9	%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2023年度は新たに9,000,000kWh分の非化石証書を購入し、各事業所の電気使用に伴う温室効果ガス排出量の削減を図った。名古屋事業所については非化石証書にて1,181t分の温室効果ガスの削減を行った。それにより、基準年度比で9.9%削減となった。また、2022年度に引き続き2023年11月に活性汚泥施設にあるブロワー1台を省エネタイプのターボブロワーに切り替えたことで同施設の電気使用量を更に約8%削減することができた。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・ 省資源の推進 (全般)	○ 業務の効率化で間接的に省エネ、省資源を図る ○ 省エネ設備の導入（事業所内の設備更新の際には省エネタイプとする） ○ デマンド計による夏場のピークカットの実施	会社全体の取組み目標：2027年度までにCO2排出量を2021年度比で34%削減する	2023年度は非化石証書の購入や活性汚泥施設へのターボブロワーの導入といった取り組みにより、CO2排出量を2022年度比で9.9%削減することができ、目標達成に向けて順調に推移している。
省エネルギー・ 省資源の推進 (冷暖房)	○ エアコン温度設定、クールビズ等	同上	エアコンの温度設定を継続して実施しており、省エネができている。
省エネルギー・ 省資源の推進 (活性汚泥施設)	○ 活性汚泥施設（2基）のブロワーを省エネタイプのターボブロワーへ切り替え	同上	2023年度は2022年度に引き続き活性汚泥施設にターボブロワー1台を導入し、同施設の電気使用量の削減を図った。
自動車利用における取組み（廃棄物運搬車両）	○ 不要なアイドリングの禁止 ○ 効率の良い回収ルートの設定 ○ 収集運搬車両へのデジタルタコグラフの導入	全車両の平均燃費3.70km/L以上	令和5年度の燃費は3.87km/Lと目標を達成することができた。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
その他クレジット	養老町 等	1,181.0 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

1,181.0	t-CO ₂
---------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

事業所内に雨水槽に雨水を貯留し有効利用している。廃棄物の中間処理にて発生した中間処理後物の減量化を図り、廃棄物の排出量の抑制を図っている。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--